



とくがわいえみつ
徳川家光は、どんな人だったの



さんきんこうたい
参勤交代を定期的に行うことを定めるなど、江戸
幕府の支配体制を固めた第3代将軍だよ。

徳川家光は1604年に、秀忠ひでただの次男として生まれました。長男の死後だったので、事実上の長男として育てられました。1623年、20歳さいで第3代将軍になりましたが、1632年に秀忠なが亡くなるまで、実権じっけんをもてなかったのです。

参勤交代を制度化した

家光は、幕府の支配体制を固めるため、法律を整えたり、幕府の幹部の仕事の分ぶん担たんを定めたりしました。1635年には「武家諸法度ぶけしよほつと」を改めて（寛永の武家諸法度かんえい）、幕府は大名より上の地位にあること、大名は参勤交代を定期的に行うことなどを決めました。

病弱で、側近たちが政治を行うようになった

家光は病弱あさなで、幼いころから、たびたび病気をわずらいました。1637年に病気で政治の仕事をはなれてから、松平信綱まつだいらのぶつな・堀田正盛ほったまさもり・安部忠秋あべただあきら、家光・秀忠の側近だった人たちが、幕府の中心となって政治を行いました。そのため、家光以後は、将軍の考えが政治はんえいに反映されることが、少なくなりました。

家康を崇拜し、乳母の春日局にあまえた

家光が子どもころ、両親からきられ、弟国松くにまつ（のちの忠長ただなが）が将軍の後つぎに決まりそうになりました。乳母の春日局は、家康にうたえて、家光を後つぎにさせました。春日局は家光をかわいがり、家光も、彼女に母親のようにあまえたそうです。家光が重い病気になったとき、彼女は、自分は今後、薬を飲まないから、家光を救ってほしいと神に誓ちかい、死ぬまで誓いを守り続けた、といわれています。また、家光は家康を崇拜し、日光東照宮にっこうとうしょうぐうの大改築を行いました。